百人一首を歩く

嶋岡　晨
著

百人一首を歩く

嶋岡 晨 著

光風社出版

写真提供

高岡市万葉歴史館／西郷町役場秘書広報課／つくば市商工観光課
福島市商工部観光課／国府町役場企画観光課
仙台市太白区秋保総合支所総務課／仙台市秋保地区観光協会
高崎市教育委員会文化財保護課／白河市役所商工観光課／白河観光協会
勝山市役所商工観光課／多賀城市産業経済課商工観光係
塩竈市観光物産協会／古川市教育委員会社会教育課
坂出市役所建設経済部商工観光課／鶴来町役場商工観光課
更埴市観光協会／知立市役所商工農政課／栃木市商工観光課
関町教育委員会社会教育文化係／松島町商工観光課

斉藤政秋／古谷卓夫／株式会社見聞社／嶋岡晨

百人一首を歩く

著者　嶋岡晨
発行者　深見兵吉
発行所　光風社出版
東京都文京区春日二―四―一
郵便番号一一二
電話〇三(五八〇〇)四四五一
FAX〇三(五八〇〇)四四五二
印刷　大盛印刷
製本　越後堂製本

◎乱丁、落丁の場合はお取り替えします
定価及び発行日はカバーに明記してあります

© SHIN SHIMAOKA　Printed in Japan

はじめに一言

洛西嵯峨は、小倉山のふもと、二尊院や清涼寺のあるあたり、静閑そのものの地に、厭離庵はある。

その厭離庵は、もと宇都宮入道頼綱の中院別荘の跡であった。下野国宇都宮の領主頼綱は、藤原定家の嫡男為家の義父（妻の実父）にあたる。蓮生と称して和歌を好んだ。この蓮生こと頼綱が嵯峨中院に豪華な別荘を建て、その広間の襖に貼る色紙を定家に懇望した。

それがそもそもの百人一首縁起である。宇都宮市が、市制百周年記念に「百人一首フェスティバル」を催したりするのも、この由縁からだ。

つまり『小倉百人一首（通称、百人一首）』は、小倉山麓の中院別荘のため定家が編んだもの、というのが定説である。「小倉〔椋〕山荘色紙和歌」とも呼ばれるのは、一首一首を色紙形とし、別荘の障子〔襖〕に貼った、という記録があるからであろう。定家の日記『明月記』の文暦二年〔一二三五〕五月二十七日のくだりには、嵯峨中院の障子をかざるため、「古来ノ人ノ歌各一首。天智天皇ヨリ以来、家隆、雅経ニ及ブ」歌を書いた、との記述が見られる。

そうして、百人一首は、のちに定家の嫡孫為氏が興す二条派の、歌学奥儀の書として継

承された、と考えられている。

ちなみに――

『百人一首』とは別に、定家の撰になるものとされる『百人秀歌』がある。後鳥羽院や順徳院の歌がなくて、そのかわり一条院皇后宮や権中納言国信（くにのぶ）らの歌が入り、また配列の順序もかなり違っている。それに百人、とは言うけれど実は、百一人百一首であった（『明月記』の記述事項は、この方の染筆に関わる、と言われている）。内容的に見て、『百人一首』の成立とは事情を異にして、定家が（色紙形を必要とした人物〔蓮生〕の要求に応じてでなく）自分自身の好みを、より強く打ち出したものが『百人秀歌』だった、と言えそうである。

すると『百人一首』は、この『百人秀歌』を下稿にして成ったものだろうか（定家の撰をたよりに、定家の歌学をひきつぐ歌人たちが、整備・補訂した、との説がある）。『百人一首』の成書筆者が、はたして藤原定家か否か――という問題も、今なお研究テーマに残されている。

ただし『百人一首』の撰歌の姿勢は、まちがいなく定家の美意識をよく示している。定家撰、と考えることは、その意味で不当ではない。

拙著は、微に入り細をうがつ学問研究の、結果としての産物ではない。古来、日本人におそらくもっとも広く読まれ親しまれてきた〈古典〉としての『百人一首』を、あらためて《現代の書》に加えて読みかえし、風雅なカルタ遊びにとどまらず、われわれの内なる伝統的なもの――感性や情念などのそれ、を探りなおし、単に懐旧・回帰のたのしみでな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

く、日本人らしい心性や美意識としてそのよろこびを今日に活かす、一つの方法としたいのである。

文芸作品において、歌枕その他の遺跡をめざして《歩く》ということは、精神の原理的なもの（母胎的なもの）への接近にほかならない。遺跡そのものの激変にもかかわらず、われわれは不変なるものを探し求め、それを目指して《歩く》という行為に滅びない夢を半ば現実化するのである。

なお、『百人一首』の一首一首すべてに歌枕があるわけではないので、その場合は同じ作者の別の歌、あるいは、ゆかりの挿話などかかげて、参考に供することにした。

執筆にさいし、たえず座右にひもといた、重要な参考書を次に挙げて、先学への感謝のしるしとしたい。

犬養廉訳注『小倉百人一首』全対訳日本古典新書（創英社、昭51）
有吉保『百人一首』講談社学術文庫（昭58）
島津忠夫訳注『百人一首』角川日本古典文庫（昭44）
石田吉貞『鑑賞百人一首』淡交社（昭46）
安東次男『百人一首』新潮文庫（昭51）
大岡信『百人一首』講談社文庫（昭55）
「別冊國文学」久保田淳編『百人一首必携』學燈社（昭57）
尾崎雅嘉『百人一首一夕話』岩波文庫（昭47、48）
また歌枕その他関係遺跡の道しるべについては、特に竹下数馬編『文学遺跡辞典』東京

堂出版（昭43―第一四版・平五）に多くの恩恵をこうむっている。

なお『百人一首』の歌一首一首の読みは、旧仮名により、作者名の読みは新仮名によってルビを付けた。文中〔　〕内は、西暦年号、補注その他である。

平成七年秋

著　者

百人一首を歩く

目　次

はじめに一言

1 天智天皇 あきのたの……15
2 持統天皇 はるすぎて……17
3 柿本人麻呂 あしびきの……20
4 山部赤人 たごのうらに……23
5 猿丸大夫 おくやまに……25
6 中納言(大伴)家持 かささぎの……27
7 安倍仲麿 あまのはら……30
8 喜撰法師 わがいほは……32
9 小野小町 はなのいろは……34
10 蟬丸 これやこの……37
11 参議篁 わたのはら……40
12 僧正遍昭 あまつかぜ……43
13 陽成院 つくばねの……45
14 河原左大臣 みちのくの……48
15 光孝天皇 きみがため……51
16 中納言行平 たちわかれ……53

17 在原業平朝臣 ちはやぶる……56
18 藤原敏行朝臣 すみのえの……59
19 伊勢 なにはがた……61
20 元良親王 わびぬれば……64
21 素性法師 いまこむと……66
22 文屋康秀 ふくからに……69
23 大江千里 つきみれば……71
24 菅家 このたびは……74
25 三条右大臣 なにしおはば……77
26 貞信公 をぐらやま……79
27 中納言兼輔 みかのはら……81
28 源宗于朝臣 やまざとは……84
29 凡河内躬恒 こころあてに……86
30 壬生忠岑 ありあけの……88
31 坂上是則 あさぼらけ……91
32 春道列樹 やまがはに……93
33 紀友則 ひさかたの……96
34 藤原興風 たれをかも……98

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

35 紀貫之 ひとはいさ……100
36 清原深養父 なつのよは……103
37 文屋朝康 しらつゆに……105
38 右近 わすらるる……107
39 参議等 あさぢふの……109
40 平兼盛 しのぶれど……112
41 壬生忠見 こひすてふ……114
42 清原元輔 ちぎりきな……116
43 権中納言敦忠 あひみての……119
44 中納言朝忠 あふことの……121
45 謙徳公 あはれとも……123
46 曽禰好忠 ゆらのとを……126
47 恵慶法師 やへむぐら……128
48 源重之 かぜをいたみ……131
49 大中臣能宣 みかきもり……133
50 藤原義孝 きみがため……135
51 藤原実方朝臣 かくとだに……137
52 藤原道信 あけぬれば……139

53 右大将道綱母 なげきつつ……141
54 儀同三司母 わすれじの……144
55 大納言公任 たきのおとは……146
56 和泉式部 あらざらむ……148
57 紫式部 めぐりあひて……151
58 大弐三位 ありまやま……154
59 赤染衛門 やすらはで……157
60 小式部内侍 おほえやま……160
61 伊勢大輔 いにしへの……163
62 清少納言 よをこめて……166
63 左京大夫道雅 いまはただ……169
64 権中納言定頼 あさぼらけ……171
65 相模 うらみわび……174
66 前大僧正行尊 もろともに……176
67 周防内侍 はるのよの……178
68 三条院 こころにも……180
69 能因法師 あらしふく……182
70 良暹法師 さびしさに……184

71 大納言経信 ゆふされば……186
72 祐子内親王家紀伊 おとにきく……188
73 権中納言匡房 たかさごの……191
74 源俊頼朝臣 うかりける……193
75 藤原基俊 ちぎりおきし……195
76 法性寺入道前関白太政大臣 わたのはら……198
77 崇徳院 せをはやみ……200
78 源兼昌 あはぢしま……203
79 左京大夫顕輔 あきかぜに……206
80 待賢門院堀川 ながからむ……208
81 後徳大寺左大臣 ほととぎす……210
82 道因法師 おもひわび……213
83 皇太后宮大夫俊成 よのなかよ……215
84 藤原清輔朝臣 ながらへば……217
85 俊恵法師 よもすがら……219
86 西行法師 なげけとて……221
87 寂蓮法師 むらさめの……224
88 皇嘉門院別当 なにはえの……226

89 式子内親王 たまのをよ……228
90 殷富門院大輔 みせばやな……230
91 後京極摂政前太政大臣 きりぎりす……232
92 二条院讃岐 わがそでは……234
93 鎌倉右大臣 よのなかは……236
94 参議雅経 みよしのの……238
95 前大僧正慈円 おほけなく……241
96 入道前太政大臣 はなさそふ……244
97 権中納言定家 こぬひとを……246
98 従二位家隆 かぜそよぐ……248
99 後鳥羽院 ひともをし……251
100 順徳院 ももしきや……253

装幀 舟橋菊男

百人一首を歩く

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com